

ソテツを加害するソテツシロカイガラムシ (*Aulacaspis yasumatsui*) の国内初確認について（報告）

○経緯

- ・令和4年10月、奄美大島でカイガラムシによるソテツの集団枯損が発生
- ・令和4年11月に森林技術総合センターでカイガラムシの種類を分析したところ、形態及び被害の特徴が、海外でソテツ類に甚大な被害を及ぼしている *Aulacaspis yasumatsui*（アウラカスピス ヤスマツイ）に類似していたことから、国立大学法人鹿児島大学に同定を依頼
- ・11月29日 形態観察及び遺伝解析の結果、*Aulacaspis yasumatsui* と同定
- ・12月5日 *Aulacaspis yasumatsui* の国内での生息初確認
- ・令和6年3月 和名を「ソテツシロカイガラムシ」と命名

○同定者

- ・鹿児島大学農学部 坂巻祥孝（さかまきよしたか）准教授
- ・北海道大学名誉教授 高木貞夫博士（*Aulacaspis yasumatsui* の命名者）

○県内でのソテツ被害状況

- ・令和3年夏から、奄美市で少数のソテツ被害あり
- ・令和4年10月以降、被害地が拡大し、奄美市、龍郷町、大和村、宇検村、瀬戸内町、喜界町で生息確認（令和7年3月末：被害本数 6,559 本、260ha）
- ・全葉が黄白色～褐色になった激しい被害は、奄美市名瀬地区に集中している

○現在の対応

- ・被害葉の除去や幹への薬剤散布、カイガラムシの飛散防止を講じた処分等の対策を、大島支庁より所有者や道路・公園等管理者へ周知済み
- ・県道管理者等による防除対策実施中（令和7年3月末（推定）：防除本数 10,140 本）



奄美市名瀬地区で発生した集団枯損

葉に付着する *Aulacaspis yasumatsui*

○参考

- ・カイガラムシ類は世界で約7千種、日本国内では約4百種が生息

(参考)

ソテツシロカイガラムシ (*Aulacaspis yasumatsui*)

【名称】

- ・和名ソテツシロカイガラムシ
- ・学名 *Aulacaspis yasumatsui*
- (英語名 : Cycad aulacaspis scale (通称 : CAS))



【分類】

- ・カメムシ目マルカイガラムシ科の昆虫

【分布】

- ・タイなど東南アジア原産。
- ・近年、急速に分布を拡大し、現在、中国南部、香港、ベトナム、シンガポール、台湾、ニュージーランド、グアム、コートジボワール、コスタリカ、西インド諸島、フロリダ、ハワイ、テキサスなど、世界各地で確認されている。

【加害対象】

- ・ソテツ (*Cycas revoluta*) をはじめ、多くのソテツ科植物に加害

【寄生・被害】

- ・葉や幹に寄生し、葉では通常裏面から寄生、多発すると表面にも寄生し吸汁
- ・地下部の根にも寄生、地下 60cm の深さでの生息確認もある。
- ・増殖力が高く、数ヶ月で株全体が白い殻で覆われることもある。
- ・吸汁された部分は黄変し、被害が進むと全体が黄白色～褐色になり、激しい場合は 1 年以内に枯死に至る。
- ・世界各地のソテツ自生地、圃場で甚大な被害を及ぼす。

【形態・生態】

- ・雌成虫介殻は、ほぼ円形で径は約 2 mm、白色
- ・雄蛹殻は細長く、長さ 1 mm 程度、白色
- ・幼虫、雌成虫は黄褐色～橙黄色
- ・1 年に 8 世代の発生 (中国)、雌成虫 1 頭から 100 頭以上に繁殖 (台湾)
- ・雌成虫は殻で覆われ移動できないが、雄成虫は羽を持ち飛ぶことが可能

【その他】

- ・ソテツ科は幹の表面が粗く入り込みやすい上、本害虫は根まで寄生することから、少数の本害虫が潜んでいても発見しにくい (各国での被害拡大に影響)。
- ・移動分散は、ソテツ科植物 (苗、葉、剪定ごみ等) の移動、人や動物などに付着しての移動、風による飛散などによると考えられている。

参考文献：

九州植物防疫 604 号 (2006)

Thomas E. et.al (2021) Horticulturæ 7, 147

フロリダ大学 HP (<https://bcrcl.ifas.ufl.edu/insect-lab/scale/index.shtml>)